



西会津町【福島県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成30年3月 ■ 人口：6,518人 ■ 面積：298km²
■ 担当課：西会津町委員会生涯学習課（平成30年3月現在）



西会津町では、急激な過疎化や少子高齢化に伴う人口減少等の影響を受けて、歴史文化遺産を次の世代に継承していくことが困難になっている。しかし、一方で歴史文化遺産の価値を見直し、それら活かした地域づくりが実施されている事例もある。本構想は各集落に伝わる「地域の宝(文化財)」から「にしあいづ物語100選」を作成し、またそれを活用することにより、地域おこしや観光に活かすことを目的とする。

5 歴史文化を表す つのキーワード

交通要衝の地、高度な縄文文化、仏教と山岳信仰の共存、
開明的人物の輩出、受け継がれた伝統行事

課題

- ・ 人口減少による歴史文化遺産の継承者不足
- ・ 観光分野と連携した取り組み
- ・ 展示、保管施設の未整備

保存活用方針

- ・ 歴史文化を活かした町づくりのための人づくり
- ・ 地域の歴史文化の保存、継承
- ・ 町の宝である歴史文化を地域活性化に活かす
- ・ 管理、運営マニュアルの確立

保存活用のための取り組み

「にしあいづ物語100選」の制作

各集落に残されている地域の大切な宝物（歴史文化遺産）にまつわる物語を収集、文章化し、「にしあいづ物語100選」を作成する。この物語を広報紙に1話ずつ連載し、将来的にはブックレットにまとめてシリーズ化し、継承していく。



「にしあいづ歴史文化の館(仮称)」の整備

町内に存在する文化財の展示や保管、学習スペースを設けた「にしあいづ歴史文化の館(仮称)」を整備し、「中核の館」と位置づける。そのほか各地区の公共施設等に文化財を展示・保管して「地区の館」とし、観光客が町全体を周遊できる仕組みを構築する。



語り部プロジェクトの推進

昔話や歴史物語に限らず、食・自然・伝統芸能などさまざまな分野の専門家や話者を「語り部」に認定し、学校教育や生涯学習、観光ガイド、イベント等で幅広く活躍の場を提供する。



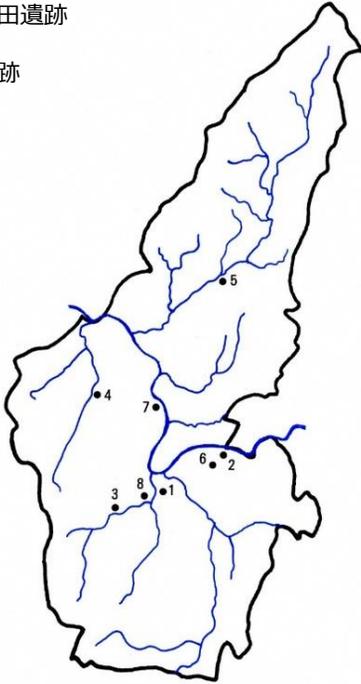
「にしあいづ遺産」の制度化

町内には指定文化財以外にも豊かな自然や伝統的な文化など、その地域で守られ継承されている大切な歴史文化遺産が多数ある。それらを有形・無形にかかわらず「にしあいづ遺産」として認定する制度を創設し、次世代に保存・継承していくとともに、地域振興の資源として活用していく。



関連文化財群

1. 芝草・小屋田遺跡
2. 上小島遺跡
3. 塩喰岩陰遺跡
4. 川谷遺跡
5. 新井田遺跡
6. 山本遺跡
7. 上野尻遺跡
8. 小中奈遺跡



「にしあいつ物語」などから描き出され、将来的に西会津町の魅力・特徴となることが期待されるストーリーを構成している歴史文化遺産のまとまりを西会津町の「関連文化財群」とした。大半の構成要素は「にしあいつ物語100選」であるため、「関連文化財群≒関連物語群」と捉えている。

ストーリー

- ①西会津町が最も輝いていた縄文文化
- ②中世の小領主たちがその後にと与えた影響
- ③交通の要衝であった西会津町の陸運と舟運
- ④生活の中に溶け込んだ祈りと信仰
- ⑤山と生業による独自の地域文化
- ⑥各地域で継承してきた伝統行事や伝説・昔話
- ⑦様々な自然災害の爪跡と景勝地

「①西会津町が最も輝いていた縄文文化」の例

策定後の成果（見込まれる効果）

① **歴史文化に対する関心の高まり**
策定にあたり、歴史文化遺産についての聞き取り調査やシンポジウム、「にしあいつ物語講座」などを実施したことにより、町民が身近にある歴史文化遺産を再認識するようになり、歴史文化に対する関心を高めていくきっかけとなった。



② **交流人口の増加**
「にしあいつ物語100選」などをベースに、様々な歴史文化遺産を見学する町内ツアーや年中行事の復活など各種イベントを企画・立案して、交流人口を増やすことにより、町を活気づけることが期待される。



③ **歴史文化遺産の調査や現状把握**
策定にあたり、何十年も前に調査した各種文化財の現況や、年中行事・伝統芸能などの追跡調査、指定文化財の悉皆調査を行ったことにより、所有者から文化財保護の現状を聞き取ることができたほか、修繕等の対策を講じたものもある。また、新たな資料の発見や伝統芸能復活の動きなどの成果も得られている。

